

NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先: 郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更: www.hokjioka.net E-mail: codmokan@agate.plala.or.jp

定価: 250円、年額: 3,000円 (送料込)

*会員は会費(支度金)を含む



《写真説明》'13.9/28
実践 15 周年記念集会
午後一杯の講演・交流
の後は、生徒 卒業生・
大学生の記念フォト。
(夕闇の玄関前にて)

INDEX

- P1: 巻頭言/
- P2-3: ヒューマントラスト/
普及活動、取組みなど
- p4-5: 教育大 2 回目実習
- p6: 15 周年記事/メッセージ
- p7: ↓ / 売店& 食育
- p8: 時事、カレンダー、他
- ~~~~~
- 別紙: 「年末物販パン」

「歴史を刻む 15 周年」

NPO 法人余市教育福祉村・理事長 菊地 大

9月28日、北海道自由が丘学園「15周年のつどい」に出席しました。鈴木秀一さんが体調を崩して入院されており、この日のために、前日退院したということを知って胸が熱くなりました。

思えば長い歴史でした。もう50年以上も前、ぼくも秀さんも20代でした。間もなく10周年を迎えるという若々しい札幌の小学校に、北大教育学部の若い教師たちが通って来てくれました。ぼくらの授業を記録して、それを分析したり、新しい教材を用意したりしてくれました。ぼくらは「授業がおもしろい」と燃えていました。そこ頃からきっと、秀さんもぼくも「新しい学校をみんなの手でつくろう」と考えていたのだろうと、今にして思います。

いよいよ本格的に「新しい学校」づくりを始めることになって、ぼくも秀さんも、札幌自由が丘学園の亀貝さんも学校を辞めて、事務所を構えてから20数年経ちました。いま3人は、それぞれのポジションで頑張っていますが、志はひとつです。目の前の子どもの困りに寄り添いながら、日本の教育の明るい道をみんなで築こうということです。

その日、ぼくは北海道自由が丘学園から巣立った皆さんの話を聞いたり、教育大釧路校の学生さんの活動にふれながら、「ああ、これはやっぱり歴史を動かす大事な一歩だ」と改めて思いました。

[当時筆者は、自由が丘の前身母体である「新しい教育・学校をめざす研究会」の事務局長でした]